中央審査会特別賞（優秀賞）

川の始まりと水の未来

滋賀県 東近江市立能登川中学校 三年 谷澤 あかり

みなさんは「川の始まり」を見たことがありますか？

私が住んでいる滋賀県では小学四年生になると「やまのこ」と呼ばれる森林体験学習があります。やまのこでは、近くの山や森に行き、間伐体験や森林散策を通して自然の大切さや保全活動の意味などを学びます。

私も四年生の時に市外の山でやまのこ学習を受けました。森林散策で遊歩道を歩くとやがて岩肌から水滴が滴る場所に着きました。

案内人のおじさんが私たちの方を振り向いて説明を始めました。

「皆さん、この岩から滴っている水滴が見えますか？これは、川の始まりです。山に雨が降ると雨水が土の中に染み込みます。雨水は何十年もかけて土の中を通り、こうして地表に出てきて、川になるんですよ。山は沢山の雨水をためるので「緑のダム」とも言われています。緑のダムによって雨水は濾過されてきれいになるんですよ。山と水は深くかかわっていて、きれいな水を守るには、健やかな山を守ることも大切なのですよ。」

私は目の前で滴る水滴がやがて川になり、湖に流れ、海の一つとなり、また雨として降る長い過程を想像して、水の雄大な旅に感動しました。

やまのこで川の始まりに会ってから、私は環境保全活動に興味を持つようになりました。

一昨年の春から、年に一回行われる近所の川の清掃活動に参加しています。活動では主に外来種の水草抜きや川底に溜まったヘドロの掻き出しなどを行っています。

清掃活動が始まり、早速スコップで泥を掻き出そうとすると泥の中からカツンと硬い手ごたえがしました。何だろうと思って水中からそれを引き上げてみると、なんとジュースの空き缶でした。驚いて周りを見ると、私の他にもゴミを持っている人は何人かいました。その後も所々でゴミを見つけ、いつのまにか活動内容の中心はゴミ拾いへと変わっていきました。活動が終わる頃にはなんとゴミ袋四袋分のゴミが集まりました。

私は身近な環境が人によって汚されていたことを知り、心が痛くなりました。今日拾ったゴミやこれまで川を流れていったゴミが環境に大きな悪影響を与えたことを考えると恐ろしくて鳥肌が立ちました。

清掃活動を行った翌日、川を見に行くとマガモの親子、シラサギ、ホンモロコの群れなどが見られました。心なしか、川の生き物たちもきれいな川に喜んでいるように見えました。私はその瞬間昔見た「川の始まり」を思い出し、川だけでなく水の旅路全てをきれいにしたい、人間を含む、水と共に生きている生き物を幸せにしたいと思いました。

私は水を守るためにわたしにもできることを二つ考えてみました。

一つ目は森林を育て、「緑のダム」を豊かにすることです。植樹体験や間伐体験に積極的に参加し，きれいな水源の源となる健やかな森林を育てていきたいです。家族や友達、地域の方にも呼びかけ近くの山から健やかに活性化させたいです。

二つ目は水の大切さを様々な人に教えることです。水に関するポスターを作って公民館や市役所など公共の場所に掲示したり、水についてのクイズなどをSNSに投稿したりすることで多くの人に水に関心を持ってもらいたいです。

私は四年生の頃に見たあの小さな雫を今でも覚えています。いったん「緑のダム」に染み込んだ水が濾過されて再び地表に流れるには四十年ほどの月日がかかるそうです。今私たちが汚した水も、大切に使った水も、長い月日を経て未来の私たちに戻ってきます。私は水を守りたい。始まりの雫が美しく輝くように。